〔個別研究〕

次世代育成力を育む家庭環境についての一考察

母子保健研究部　齋藤幸子・宮原　忍

要旨：少子時代における家庭支援策を考えるための資を得ることを目的に，親の養育態度と子の人格発達・次世代育成力との関連を調べた。対象は 25 歳～54 歳の男女 635 名で，エリクソン心理社会発達段階目録検査(EPSI)を採用した。親の養育態度のうち，対象者が 10 代の頃「親から尊重されて育った」と感じているか否かに焦点をあて，父母から尊重された，父のみから尊重，母のみから尊重，父母いずれからも尊重なしの 4 群別に分析したところ，EPSI 得点，世代継承観などの多くの項目で，父母から尊重された群と尊重なしの群の間で，有意な差を認め，子が「親から尊重されて育った」と認識することの重要性を明らかにした。また，対象者の性別で見ると，異性の親に尊重されて育ったと感じられることが，次世代育成力の獲得に関連のあることが示唆された。以上から，子が親から尊重されていると感じることのできるような家庭環境づくりなど，親子それぞれのライフサイクルにおいて，それぞれの次世代育成力の発達を促す長期的視野の支援が望まれる。

見出し語：次世代育成，EPSI，世代継承，親の養育態度，，

A study on generativity development and their parents' bringing-up attitudes

Sachiko SAITO, Shinobu MIYAHARA

Supporting family is now an urgent task in Japan as a country with decreasing number of children. E. H. Erikson's concept of "generativity" seems to give a key to solve this task.

635 Japanese adults were investigated using EPSI(Erikson's psychosocial stage inventory) to measure the power of succeeding generations, and the scores and the influence of their parent's esteem toward them during bringing–up were analyzed. Among 4 groups, "esteemed by the both parents", "esteemed by the father only", "esteemed by the mother only", and "no esteem from the parents", significant differences were shown. E.g., EPSI score was highest in 1st group, "esteemed by the both parents", and lowest in 4th group, "no esteem from the parents". To bring up children, the importance of dealing children with esteem was confirmed

Key words ： generativity, EPSI, succession, parents' bringing-up attitudes,

I　研究目的

筆者らは，成人の次世代育成力について E.H.Erikson の発達段階漸成図式[1]における generativity(生殖性)がその中核概念となるのではないかと考え調査研究を行い，人の成熟が次世代育成力に関連があるとの結果を得た[2]。また，その背景要因として，育った家庭の雰囲気，父母の子への接し方，父母の夫婦像などの家庭環境，および家庭外の人との交流などがあげられ，性格特性としては共感性が高い傾向が認められた。反対に，次世代育成力の発達の停滞を示す要因には，新しい場面や人との交流とさける回避型人格傾向が認められた。以上の結果を踏まえ，本稿では，少子時代における家庭への子育て支援，思春期相談などの際の参考資料を得る目的で，親の養育態度や家庭環境のあり方について検討する。父母の接し方の中でも「私は，父（または母）に尊重されて育った」との認識に意味があると考えられたので，親から尊重されて育つことと次世代育成力との関連を調べる。

II　研究の方法

平成 14 年度チーム研究「少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究」で行った調査データを用い[1]，父母の接し方に関する設問で「私は，父（または母）に尊重されて育った」と回答したか否かをを従属変数としてクロス集計を行った。対象者の父母が実際に子どもを尊重したかどうかを問うたものではなく，現在成人である対象者が 10 代の頃を振り返って，親の接し方をどう捉えているかによるものである。

対象は 25 歳～54 歳の男女 635 名で，調査内容は人格成熟度の指標として，エリクソン心理社会発達段階目録検査(EPSI：Erikson psychosocial stage inventory）[3]を採用し，同時に育った家庭環境，世代継承観などについて回答を求めたものである[2]。

III　結　果

対象を「父母に尊重された」B 群，「父のみに尊重された」F 群，「母のみに尊重された」M 群，「父母とも尊重なし」N 群の 4 群に分け分析を行った（表 1)。

1. EPSI 得点平均値の検討

EPSI は，信頼性，自律性，自主性，勤勉性，同一性，親密性，生殖性，統合性の 8 尺度それぞれ 7 項目ずつ計 56 項目で構成されている。はじめに 56 項目の合計点を，続いて 8 尺度別平均値を 4 群別に検討した。

1）全体および男女別合計得点

EPSI 合計得点平均値はそれぞれ，B 群 136.62，F 群 132.21，M 群 130.36，N 群 121.15 となっており，N 群と B，F，M，群のそれぞれとの間で有意な差が認められた（P<0.01)。

男女別に合計得点平均値をみると，表 2 に示すように，男性の場合，値が高い方から B，M，F，N 群の順になっており，N 群 121.58 と F 群 122.28 が近い値を示し，B 群 137.91 と M 群 132.95 が近い値を示している。女性の場合，値が高い方から F，B，M，N 群の順になっており，N 群 120.71 と M 群 126.83 が近い値を示し，B 群 135.67 と F 群 139.36 の値が近い値を示している。すなわち，男性の「母に尊重された群」，女性の「父に尊重された群」の得点が，それぞれ最上位の「父母に尊重された群」に近い値を示し，一方，男性「父に尊重された群」，女性の「母に尊重された群」の値が，それぞれ最下位の「父母に尊重されなかった群」の値に近い傾向がみられた。異性の親に尊重されたかどうかが EPSI 得点に関連があることが示唆された。

表 1.対象内訳（人）

		N 群	B 群	F 群	M 群
		尊重なし	父母尊重	父のみ尊重	母のみ尊重
男性	317	198	45	18	56
女性	318	191	61	25	41
計	635	389	106	43	97

表 2.群別男女別 EPSI 合計点

	N 群	B 群	F 群	M 群
全体	121.15	136.62***	132.21***	130.36***
男性	121.58	137.91***	122.28	132.95***
女性	120.71	135.67***	139.36***	126.83

T 検定　基準 N 群　***P<0.01

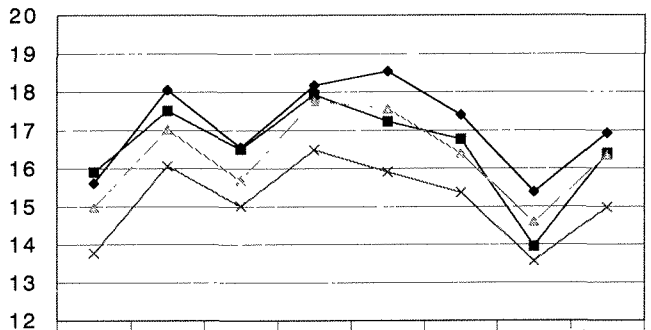
2）EPSI 尺度別検討

EPSI の 8 尺度，信頼性，自律性，自主性，勤勉性，同一性，親密性，生殖性，統合性それぞれの平均値を B，F，M，N 群別に検討した。図 1 に示すように信頼性をのぞくすべての尺度で，B 群の平均値が 4 群の中で最も高かった。信頼性については F 群が B 群をやや越えていたが，有意な差ではなかった。B 群に次いで，自主性と生殖性以外の 6 尺度で，F，M，N 群の順で EPSI 得点が漸減していた。N 群と他の 3 群を比較すると，ほとんどの尺度で N 群が有意に低いが，自主性では N 群と M 群間で差がなく，生殖性では，N 群と F 群の差がなかった。

性別にみると，男性では図 2 に示すように，すべての尺度で B 群の値がもっとも高く，次いで M 群であった。3 位と 4 位は F 群と N 群が上下しており，生殖性では F 群が最も低い値を示した。

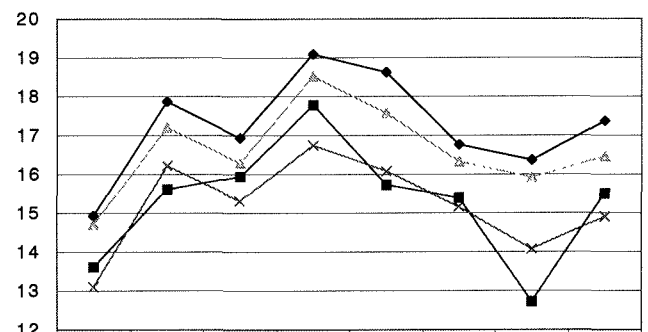
N 群と他群の差をみると，B 群はすべての尺度で N 群より有意に高かった。M 群では自律性と自主性を除いたすべての尺度で N 群より有意に高かった（P<0.01

図1　EPSI平均得点（全体）



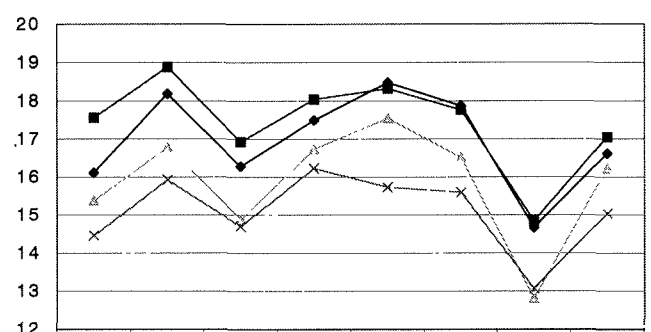
	信頼性	自律性	自主性	勤勉性	同一性	親密性	生殖性	統合性
B群：父母尊重	15.6	18.0	16.5	18.1	18.5	17.4	15.3	16.9
F群：父のみ尊重	15.9	17.5	16.5	17.9	17.2	16.7	13.9	16.4
M群：母のみ尊重	14.9	17.0	15.6	17.7	17.5	16.4	14.6	16.3
N群：父母尊重なし	13.7	16.0	15.0	16.4	15.9	15.3	13.5	14.9

図2　EPSI得点平均値（男性）



	信頼性	自律性	自主性	勤勉性	同一性	親密性	生殖性	統合性
B群：父母尊重	14.9	17.8	16.9	19.0	18.6	16.7	16.3	17.3
F群：父のみ尊重	13.6	15.6	15.9	17.7	15.7	15.3	12.7	15.5
M群：母のみ尊重	14.7	17.2	16.2	18.5	17.5	16.3	15.9	16.4
N群：父母尊重なし	13.1	16.2	15.3	16.7	16.0	15.1	14.0	14.9

図3　EPSI得点平均値（女性）



	信頼性	自律性	自主性	勤勉性	同一性	親密性	生殖性	統合性
B群：父母尊重	16.1	18.1	16.2	17.4	18.4	17.8	14.6	16.6
F群：父のみ尊重	17.5	18.8	16.9	18.0	18.3	17.7	14.8	17.0
M群：母のみ尊重	15.3	16.7	14.8	16.7	17.5	16.5	12.8	16.2
N群：父母尊重なし	14.4	15.9	14.7	16.2	15.7	15.5	13.0	15.0

または P<0.05)。一方 N 群と F 群では各尺度とも有意な差がなく，B 群と M 群でも各尺度とも有意な差がなかった。男性の場合，「父母に尊重された群」と「母にのみ尊重された群」が近い値を示し，4 群中の上位を占めていた。

女性の場合，図 3 に示すように，8 尺度中 5 尺度は F 群が，3 尺度は B 群が最も高い値を示し，F 群と B 群が，上位 1 位 2 位を占めた。3 位と 4 位は生殖性を除いた各尺度で M 群が 3 位，N 群が 4 位となっているが，生殖性は有意な差ではない。N 群と他群を比べると，F 群と B 群はすべての尺度で N 群より得点が有意に高かった。M 群は同一性のみ N 群より有意に高いが（P<0.01)，他の 7 尺度では差がなかった。

F 群と B 群間では信頼性のみ F 群が有意に高かった（P<0.05)が，他の尺度では差がなかった。女性の場合，「父母に尊重された群」と「父に尊重された群」が近い値を示し，4 群中の上位を占めていた。

以上のように，EPSI 得点平均値を尺度群別にみると，全体の傾向としては，父母両方から尊重されて育ったと答えた群の得点が最も高く，次いで，父母いずれかに尊重された群，そして父母いずれからも尊重されなかった群の得点は最も低いが，男性では「母に尊重された群」が，女性では「父に尊重された群」が「父母に尊重された群」に近い高い値を示した。

2．結婚と希望子ども数

既婚率は N 群 67.9%，B 群 70.8%，F 群 69.8%，M 群 70.1%と差がなかった。希望する子ども数は，B 群 2.04 人，F 群 2.10 人，M 群 2.01 人，N 群 1.86 人で，B 群と N 群の間にやや差が認められた（p<0.1)。性別に見ると，表 3 の通り，女性 F 群の値が最も高く 2.38 人で N 群との間で有意な差があった（P<0.01)。男性においては，M 群が 2.13 人と他群と有意な差ではないが，F 群 1.78 人に比べて多く，それぞれ異性の親に尊重されて育った群の希望子ども数が多い傾向があった。

表 3．群別男女別希望子ども数（人）

	N 群	B 群	F 群	M 群
全体	1.86	2.04*	2.10	1.86
男性	1.90	2.18*	1.78	2.13
女性	1.88	1.98	2.38***	1.85

T 検定　基準：N 群　***P<0.01　*P<0.1

3．世代継承観

次世代への世代継承観について各項目が選択された割合を 4 群別に図 4 に示した。N 群は他の 3 群と比較すると，「1.私には次世代に残したいものがある」および「3.自分の子どもだけでなく次世代の世話をするのは大切」の割合が有意に低かった(p<0.01)。「2.私にとって子を生み育てることは大切」「4.子育ては社会全体で責任を持つべき」では B 群・M 群は N 群に比べ有意に高かった(p<0.01）が，N 群と F 群には差がなかった。

男女別にみると，男性では B 群と M 群が各項目の 1 位と 2 位を占め，「2.子を生み育てることは大切」「3.次世代の世話をするのは大切」では，N 群に比べ B 群と M 群が有意に高かった(p<0.01)。F 群の値は 4 項目中 3 項目で最も低く，全体に N 群と近い値を示した（図 5)。

女性では，N 群が 4 項目とも最も低い値を示した。N 群に比べ「1.次世代に残したいものがある」では F 群と M 群が有意に高いなどの傾向が見られたが，他の項目では比較的数字が拮抗しており，男性ほどの特徴は見られなかった（図 6)。

親世代からの継承観については，「私は，親や上の世代から伝えられる（物的）財産を大切にしたい」B 群　55.7%，F 群 51.2，M 群 58.8%，N 群 41.4%で，N 群と B 群・M 群の間に有意な差が認められた（P<0.01)。「私は，親や上の世代から伝えられる知的財産や生活の知恵を大切にしたい。」では，B 群 90.6%，F 群 88.4，M 群 91.8%，N 群 67.9%で，N 群と他群の間に有意な差が認められた(p<0.01)。

以上から，父母両方またはいずれかから尊重されて育った群が，親世代から継承されるものを大切にし，次世代を育成することの価値をより認識しているといえる。また，子を生み育てることの大切さ，子育ての社会的責任については，父のみに尊重された場合は，母のみに尊重された場合に比べ値が低く，特に男性においてその傾向が顕著であった。

4.尊重されたと感じる家庭の雰囲気

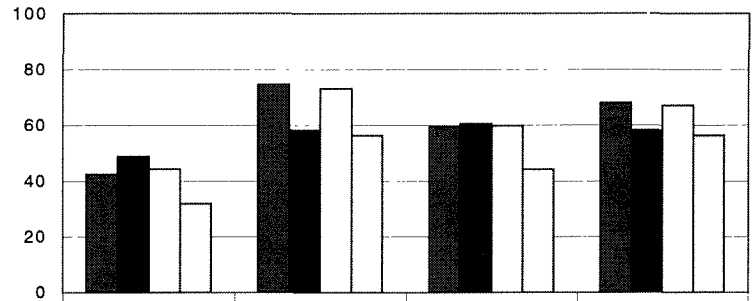
「親から尊重されて育った」と感じている場合とそうでない場合の，家庭の雰囲気の違いを表 4 に示した。「1.考えなど自由に話し合い会話が豊かだった」「2.様々な人と付き合いがあり開放的だった」「4.ユーモアと安らぎがあった」の各項目で，N 群と B 群の間に

表 4.群別家庭の雰囲気「はい」と答えた割合

検定基準N群

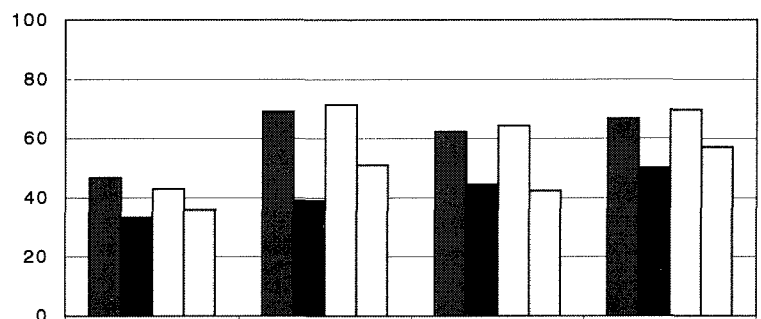
	N群		B群		F群		M群	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1.考えなど自由に話し合い会話が豊かだった	115	29.6	65	61.3***	21	48.8***	31	32.0
2.様々な人と付き合いがあり開放的だった	110	28.3	44	41.5***	16	37.2	35	36.1
3.批判的なことを言い合い，家族仲がよくなかった	46	11.8	3	2.8	4	9.3	13	13.4
4.ユーモアと安らぎがあった	122	31.4	71	67.0***	19	44.2*	40	41.2*
5.厳格で息苦しい雰囲気であった	57	14.7	5	4.7	3	7.0	13	13.4

図4　世代継承観（全体・%）



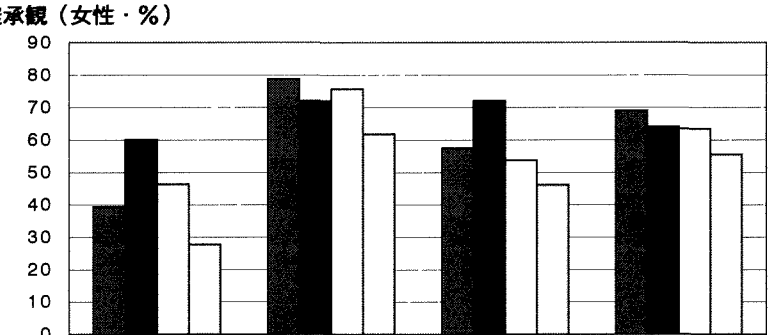
	1残したいものがある	2子を生み育てることは大切	3配慮・世話大切	4社会全体が養育責任あり
■B群：父母尊重	42.5	74.5	59.4	67.9
■F群：父のみ尊重	48.8	58.1	60.5	58.1
□M群：母のみ尊重	44.3	73.2	59.8	67.0
□N群：父母尊重なし	31.9	56.3	44 2	56.3

図5　世代継承観（男性・%）



	1残したいものがある	2子を生み育てることは大切	3配慮・世話大切	4社会全体が養育責任あり
■B群：父母尊重	46.7	68.9	62.2	66.7
■F群：父のみ尊重	33.3	38.9	44.4	50.0
□M群：母のみ尊重	42.9	71.4	64.3	69.6
□N群：父母尊重なし	35.9	51.0	42.4	57.1

図6　世代継承観（女性・%）



	1残したいものがある	2子を生み育てることは大切	3配慮・世話大切	4社会全体が養育責任あり
■B群：父母尊重	39.3	78.7	57.4	68.9
■F群：父のみ尊重	60.0	72.0	72.0	64.0
□M群：母のみ尊重	46.3	75.6	53.7	63.4
□N群：父母尊重なし	27.7	61.8	46.1	55.5

有意な差が認められ，B 群の割合が高かった（P<0.01）。特に自由な雰囲気の中，ユーモアと安らぎのある家庭では，F 群も N 群に比べ割合が高く，「親から尊重されて育った」と感じるのは，このような家庭の雰囲気が一つの要素となることが考えられる。

「誰の世話を受けて成長したか」の設問で F 群と M 群を比べると，「父」と答えた割合は，F 群 93%・M 群 76.3%で，「母」と答えた割合は，F 群 93%・M 群 99%であった。両群とも「尊重された」と答えなかった親から，世話を受けたと答えている割合が F 群 93%・M 群 76.3%もあり，「世話を受けた」と「尊重された」の間に意味の違いがあることがわかる。

親の接し方を見ると，「父は私の話に耳を傾けてくれた」F 群 48.8%・M 群 12.4%，「父は気づかってくれた」F 群 67.3%・M 群 43.3%，「母は私の話に耳を傾けてくれた」で F 群 27.9%・M 群 55.7%で，いずれも有意な差があった(p<0.01)。

Ⅳ　考　察

親の養育態度の中で，子が「親から尊重されて育った」と認識することが，次世代育成力が育つ上で重要であることを明らかにした。親の養育態度と子どもの発達に関しては従来から多くの研究がなされてきたが，親の養育力の継承に関しては，虐待に関する世代間連鎖などネガティブなデータ以外には，その取り組みはあまり多くないのではないだろうか。岡本は，「アイデンティティを育てる家族」について，「この問題は，これまで正面から取り上げられたことはあまりなかったのではないであろうか」と述べている [5]。その上で青年の家庭行事への参加実態の調査分析を通して「青年期の子どもと両親の絆の強さは，青年の発達を阻害する者ではなく，むしろ促進するものである」との成果を示しており，本調査結果を支持するものである。

さて，本調査における「親から尊重されて育った」と感じているか否かは，あくまで子ども側の受け止め方であった。「父に尊重された」「母に尊重された」のいずれも選択していない割合が 61.3%と高かったが，どのような親の態度を「尊重された」と感じたのであろうか。家庭の雰囲気で「考えなど自由に話し合い会話が豊かだった」「ユーモアと安らぎがあった」などが参考になったが，父または母から「世話を受けた」と答えた割合は「尊重された」と答えた割合より遥かに高く，その意味の違いが明らかであった。どのような親の接し方・養育態度が子どもにとって「尊重された」と受け止められるかの検討は今後の課題である。

次に性差についてであるが，対象を性別で見ると，「異性の親に尊重された」と感じられることが EPSI 得点ほか，多くの項目と関連がみられた。EPSI 日本語版の作成にあたった中西らによって EPSI の尺度には性差があることが報告されており，青年期と成人期では，性差のあらわれかたが異なり「成人においては発達課題の受け止め方に男女で差のでてくるものがあることがわかる」としている [3]。この指摘を鑑みれば，成人に対する青年期を振り返る設問であった本調査における性差については，慎重に受け止める必要があることが分る。従って今後は，青年期以前の親子を対象とした世代間継承の調査が必要であろう。また，両親に尊重された群が他群に比べ，多くの項目で優勢な成績を示したことは，我々の先行研究で得られた結果にみるように [1]，より多様な人との触れ合いが重要であるとの示唆とも考えられ，親以外の「重要な他者」に関する検討も必要であろう。

最後に，Erikson によるライフサイクルの定義の二重性ついて触れておきたい。西平 [4] によれば，その一つは＜自己完結性＞「人生の終わりへと進みゆく一個人の生のサイクル」であり，他方は，＜世代連鎖性＞「次の世代に引き継がれてゆく世代のサイクル」である。また，「エリクソンのライフサイクル論の焦点は（中略），子どもが育てられながら育てる者へなってゆくそのプロセス全体にこそ，目を向けていたことになる」としている。この観点から本調査は，現在の成人が個々のライフサイクルの中で親世代から継承され，今また次世代へ継承されようとしている次世代育成力を問う試みであったといえよう。このライフサイクルの二重性を根幹においた「育てられながら育つ者になる」の視点こそが，現在我々が次世代育成力を育てるための環境整備・支援策を考える上で重要と考える。

Ⅴ　結　語

青年期に親に尊重されて育ったとの認識をもつことは，成人期の人格の成熟度および世代継承観に正の関連が認められ，家庭において父母双方から尊重されることの重要性が示された。また，異性の親に尊重されることに意味があることも示唆された。子が親から尊重されていると感じるために大人はどのように接したらよいか。若い世代の意識を知ることが不可欠であろう。その上で，今日様々な条件下に置かれている家庭に対して，親子それぞれのライフサイクルにおける次世代育成力を高める長期的視野による支援が望まれる。

文　献

1）E.H.エリクソン.ライフサイクル　その完結. みすず書房 1989；73
2）宮原　忍, 他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究（第三報）「次世代育成に関するアンケート調査調査」分析と総括. 日本子ども家庭総合研究所紀要.2003.第 39 集；151-167.
3）中西信男・佐方哲彦. EPSI－エリクソン心理社会的段階目録検査－.上里一郎監修.心理アセスメントハンドブック, 第 2 版.西村書店, 2001；365-376.
4）西平直.エリクソンの人間学. 東京大学出版.1993；93
5）岡本祐子編著.アイデンティティ生涯発達論の射程.京都市.ミネルヴァ書房. 2002；223，229